

福岡エリア定期法律相談の五月の開催日は一〇日(火)です。組合員の悩みに弁護士がお応えします。

山 やま 笠

NTT労組
コムウェア九州分会

発行責任者
権丈 雄二

編集責任者
羽田 康祐
編集担当
大田 聖瞳
井邊

石橋みちひろの認知度向上！ 若手世代の取り組み

四月二十一日に東京・参議院議員会館において第二回frageリーダーフォーラムが開催され、九州分会からは、和田尚之さんが参加した。

今回の目的としては、国会議事堂の見学、および今夏の参議院選挙に向けての持株グループ本部のFrageとしての統一行動提案を行いました。

まず持株グループ本部のFrageメンバー四〇人程で国会議事堂内部を見学しました。

国会議事堂内部に入ると、この経験が今まで無かったため、見るもの全てが新鮮で、いつもテレビで見ることができ、政治に対する想いを強めることが出来ました。一般見学も行っているそうなので、興味がある方は是非一度足を運ぶことをオススメします。

次に各分会のメンバーと



班を作り、「石橋みちひろ議員の名前を知ってもらうため、または夏の参議院選挙の投票につなげるための統一行動」についてFrageメンバーにて話し合いました。特に若手社員への認知度および投票率が少ないことを懸念し、「どうすればNTT持株グループのFrage社員が石橋みちひろ議



員に投票するか」という点を重視して皆で議論を進めました。フェイスブックやツイッターといったSNSを用いて若手へのアピールを行うといった案が出ましたが、「特定の政党を応援しているように見える」や「フラクナ内容を石橋議員がアップすることにより、批判の声が強くなる」といった問題点が浮かび上がり、議論が難航しました。結果、七月の参議院選挙に向けて、会社メールの書名欄に石橋みちひろ議員の応援メッセージを付議することに決定しました。Frage世代の皆様には再度依頼すると思いますが、ご協力よろしく願います。(和田)

「平成28年熊本地震」におきまして、被災された組合員およびご家族の皆様に対して、心よりのお見舞いを申し上げます。
自然災害共済加入者または、未加入の方でも住宅および家財の被害状況によっては、共済金が支払われる場合がありますので、分会執行委員までご相談ください。

組織内『石橋みちひろ』参議院議員 5年間の活動



「つながって ささえあう社会」へ走り続けた5年間

教育

- 「教育における情報通信(ICT)の利活用をめざす議員連盟」立ち上げ
超党派の有志議員で政策提言をめざすとともに、学校現場や自治体、保護者の皆さんにICT利活用の必要性や有用性を理解してもらう活動を展開することを確認。



都内の小学校を視察 (2015)



韓国の小学校を視察 (2015)

- 『地方教育行政法開始案』に対する参議院本会議代表質問に立つ

2013~14年度は、参議院文教科学委員会に所属。教育行政への国の関与を強めようとする安倍政権に真っ向対峙し、教育予算の拡充や地域コミュニティの教育参加の強化など、教育のあるべき姿を積極的に提言。

- ICT教育利活用の実例を視察

都内や沖縄県宮古市、広島、韓国などで教育の場でのICT利活用の実例を視察。現場の声を受けとめながら、次代を生きる子供たちにふさわしい学びを論議し、提案。

環境

- スマートグリッドタウン、植物工場などを視察・提言
開発や成長一辺倒ではなく、自然環境に、そして人や動植物に優しい経済政策や環境・エネルギー政策を追求。



東京都府中市のスマートグリッド
関連施設を視察 (2012)



情報労連「環境統一行動」
で河川敷清掃 (2015)

- 「2030年代原発ゼロ」に向けた取り組み

東京電力福島第一原発事故後のエネルギー政策の見直し論議にも積極的に参加。民主党の「2030年代原発ゼロ」政策の決定をふまえ、特に再生可能エネルギーの導入・利用拡大に向けて、スマートグリッドの推進等を提言。

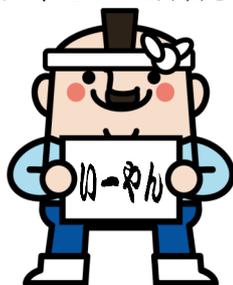


NS部 サービス担当の投資家 私の出身地

私の出身地は、大分県の北部に位置する漁師町です。漁師町ですので言葉が荒く、他の地域には無いような独特の方言が現在も残っています。

例えば、身近な方を呼ぶ時は、おばちゃん=ばあばあ、おじちゃん=いーやん、あなた=あが、といった方言を使います。

この身近な方の呼称は一例で、他の地域では聞いた経験の無い方言が数多く残っていますので、他の地域の方が聞いても、何を言っているのか理解できないでしょうし、言葉が荒いため、喧嘩していると良く誤解されます。



しかしながら、田舎に帰省して懐かしい方言を耳にすると、不思議と落ち着きますし、帰省した実感が沸きますので、方言の良さを感じます。



「石橋みちひろ」参議院議員の活動報告

まずは、熊本県域を中心に九州全域で発生している断続的な大地震によって亡くなられた方々に心から哀悼の意を表します。また、被災された皆さまにお見舞いを申し上げますと共に、通信インフラの復旧や臨時電話の架設等、被災地でご奮闘いただいている仲間の皆さまに心からの敬意と感謝を申し上げます。今後の復旧・復興に向けた取り組みについては、国会として全力を挙げ、取り組んでいくことをお約束しておきます。

それにしても、あの未曾有の被害をもたらした「東日本大震災」および原発事故から5年の月日が経ち、その経験や教訓をふまえて、全国各地で防災・減災に向けた対応が強化され、加速化されてきたはずでした。しかし今回も、地震発生後の対応の司令塔たるべき自治体の庁舎が壊れ、機能を果たせなくなったり、市民の避難場所たる公共施設等がその役割を果たせなくなったりしており、果たして5年前の経験・教訓が十分に活かされてきたのか否か、国政を担う立場にいる者として、あらためて自問自答せざるを得ない状況を目の当たりにしています。

今回の熊本地震は、私たちにあらためて、日本の国土においてはどこでも大きな地震災害が起こりうることを、そしてそのことを前提とした防災・減災の取り組みが必要であることを教えてくれます。今回の被災地の復旧・復興はもとより、全国的な防災・減災の取り組み強化に一層、努めていくべきことを改めて決意を含めて申し上げておきたいと思います。

参議院議員 石橋 みちひろ